

# KANSAI ウオーク 2023

## 第3回大会 大阪エリア

- スペシャルコース (約13km)
- ファミリーコース (約9km)

八尾市久宝寺緑地 (修景広場) から  
聖徳太子ゆかりの地、  
寺内町を歩くコースコース

コース監修: 北川 央 (九度山・真田ミュージアム名誉館長)

コース上の寺院・神社へおまいりされない方は、境内に入らず前をお通りください



### スペシャルコース (約13km)

1 久宝寺緑地 修景広場 → 2 久宝寺寺内町古口地藏尊 → 3 太田邸 → 4 瀬口邸 → 5 木村邸 → 6 高田家住宅 → 7 浅野家住宅 → 8 久宝寺寺内町西口地藏尊 → 9 許麻神社 → 10 久宝寺御坊頭証寺 → 11 八尾市まちなみセンター → 12 念佛寺 → 13 平井邸 → 14 久宝寺寺内町今口地藏尊 → 15 長宗我部盛親物見の松 → 16 長瀬川久宝寺船着場 → 17 八尾御坊大信寺 → 18 八尾天満宮 → 19 常光寺・大坂夏の陣藤堂家家臣墓所 → 20 慈願寺 → 21 今東光資料館 → 22 環山楼 → 23 安中新田会所跡旧植田家住宅 → 24 渋川神社 → 25 樟本神社 (北木の本)・守屋首洗池 → 26 樟本神社 (南木の本)・日羅寺 → 27 光蓮寺・稲城址 → 28 樟本神社 (木の本) → 29 鎧矢塚 → 30 物部守屋墓 → 31 大聖勝軍寺 → 32 跡部神社 → 33 真観寺・三好長慶墓 → 1 久宝寺緑地 修景広場

### ファミリーコース (約9km)

1 久宝寺緑地 修景広場 → 2 久宝寺寺内町古口地藏尊 → 3 太田邸 → 4 瀬口邸 → 5 木村邸 → 6 高田家住宅 → 7 浅野家住宅 → 8 久宝寺寺内町西口地藏尊 → 9 許麻神社 → 10 久宝寺御坊頭証寺 → 11 八尾市まちなみセンター → 12 念佛寺 → 13 平井邸 → 14 久宝寺寺内町今口地藏尊 → 15 長宗我部盛親物見の松 → 16 長瀬川久宝寺船着場 → 17 八尾御坊大信寺 → 18 八尾天満宮 → 19 常光寺・大坂夏の陣藤堂家家臣墓所 → 20 慈願寺 → 21 今東光資料館 → 22 環山楼 → 23 安中新田会所跡旧植田家住宅 → 24 渋川神社 → 30 物部守屋墓 → 31 大聖勝軍寺 → 1 久宝寺緑地 修景広場

→ スペシャルコース  
→ ファミリーコース

…誘導スタッフ

1km S … スタートからのおおよその距離

1km G … ゴールまでのおおよその距離

…ファミリーマート

…ローソン

…セブンイレブン

大会途中で棄権したり、  
救護を要する時は…



大会本部 (Central Site)  
救護 (First Aid)

TEL  
080-8506-5200

この電話は大会当日のみ有効です

## 1. 久宝寺緑地 (修景広場)



久宝寺緑地は大阪府営の緑地公園で、服部・鶴見・大泉と並ぶ大阪4大緑地のひとつとされ、甲子園球場の約10倍もの広さを誇る。園内には軟式野球場や陸上競技場、テニスコートなどの施設があり、夏はプールも営業される。公園内には四季折々、さまざまな花が咲き誇り、とりわけ4月下旬～5月に開園するシャクヤク園が有名である。

## 2. 久宝寺寺内町古口地藏尊



久宝寺寺内町は、浄土真宗本願寺派の久宝寺御坊顕証寺を中核として作られた寺内町で、周囲を土塁と濠で囲い、内部は基盤の目状の道路網で町割りとなっていた。北口・古口・西口・南口・東口・今口といった出入口で外部とつながり、各出入口には地藏尊が建てられた。古口地藏尊もその一つで、高さ30cm、幅25cmの舟形光背の前に像高25cmの地藏尊像が坐す。歯痛に霊験があると信仰されている。

## 3. 4. 5. 6. 7. 太田邸、瀬口邸、木村邸、高田家住宅、浅野家住宅

久宝寺寺内町には、その町割りとともに、江戸時代からの町屋が多く残り、往時の寺内町の風情を今に伝えている。中でも、高田家住宅、浅野家住宅は国の登録有形文化財に指定されている。高田家は江戸時代には「油屋」と号し、久宝寺村の庄屋を務めたので、久宝寺村に関する貴重な古文書が多数残される。住宅は顕証寺に通じる東西の通りに面して建ち、主屋は屋敷構えを出格子(でごうし)と虫籠窓(むしこまど)で整え、米蔵は屋敷地の東側に建てられている。浅野家住宅は主屋から嘉永元年(1848)の棟札が発見され、乾蔵とともに江戸時代後期の建築である。他にも太田邸、瀬口邸、木村邸など多くの町家が残る。

## 8. 久宝寺寺内町西口地藏尊



西口は「平野口」とも呼ばれ、顕証寺の門前から北西に位置し、久宝寺と平野郷を結ぶ八尾街道が通じていた。寛政年間(1789～1801)のお連夜(おのつゆ)市の日に「南町焼け」といわれる大火が起こり、地藏尊が焼失したため、現在地に移された。この場所が「南町焼け」の火元であったと伝えられる。地藏尊は花崗岩製で、像高30cmの立像。

## 9. 許麻神社 (こまじんじや)



平安時代の『延喜式』神名帳に河内国淡川郡六座の内の一つとしてその名が記される古社。朝鮮半島からの渡来氏族で、この地を本拠とした大泊連(おほこまのむらじ)の祖神を祀ったと伝えられる。当社の神宮寺が聖徳太子創建と伝える久宝寺で、「久宝寺」の地名のもとになった。久宝寺は戦国時代の兵火に罹って灰燼に帰し、その後観音院のみ再興されたが、明治の神仏分離で廃寺となった。手水舎の建物は、この「久宝寺観音院」の鐘楼を転用したもの。現在の祭神は「素戔嗚尊(すさのおのみこと)」で、明治以前は「牛頭天王(びざてんのう)」と呼ばれた。

## 10. 久宝寺御坊顕証寺



本願寺8世の蓮如上人は文明2年(1470)に河内国淡川郡を訪れ、布教活動を行なった。当初は慈願寺を拠点としたが、明応年間(1492～1501)に西証寺を建立した。当初は蓮如11男の実順が住持を務めたが、永正15年(1518)に25歳の若さで亡くなり、あとを継いだ実順の子実真も享祿2年(1529)13歳で早世したため、近江国近松(現在の滋賀県大津市)の顕証寺から蓮如6男の蓮淳を迎えて住持とし、寺号も「顕証寺」と改めた。浄土真宗本願寺派では本山の西本願寺に次ぐ「蓮枝」という寺格に列し、多くの西本願寺門主を輩出した。本堂・表門・長屋門など、多くの建造物が大阪府指定文化財となっている。

## 11. 八尾市まちなみセンター



八尾市まちなみセンターは久宝寺寺内町の歴史遺産の継承と八尾市のまちづくりについての地域活動の拠点として設置された。愛称は「寺内町ふれあい館」。館内では久宝寺寺内町の歴史に関する展示が行なわれている。観覧は無料。

## 12. 念佛寺



平野の大念佛寺を総本山とする融通念佛宗(ゆうつうねんぶつしゅう)の寺院。本堂脇に祀られる十一面観音菩薩は聖徳太子作と伝えられ、明治の神仏分離で廃寺となった久宝寺観音院の本尊であった。河内西国霊場の第二番札所。

## 13. 平井邸



## 14. 久宝寺緑地今口地藏尊



今口は、東口とともに八尾へ通じる出入口。地藏尊は花崗岩製で、像高60cmの半肉彫りの立像。別名を「樋之上地藏尊」といい、弘法大師(空海)像とともに祀られている。

## 15. 長宗我部盛親物見の松

慶長20年(1615)5月6日、大坂夏の陣「八尾・若江合戦」において、豊臣方の長宗我部盛親隊は久宝寺に陣取り、旧大和川(長瀬川)対岸の八尾に陣を置いた徳川方の藤堂高虎隊と激戦を繰り広げた。長宗我部盛親はこの地にあった松の巨木に上って藤堂隊の動静を探ったと伝えられる。現在は若い松の木が植樹され、石碑が建てられている。



## 16. 長瀬川久宝寺船着場



長瀬川は久宝寺川とも呼ばれ、宝永元年(1704)に付替えられた旧大和川の本流。往時の川幅はおよそ200mもあった。付替え後も、八尾と久宝寺の人々の共同出資で剣先船が運行され、大坂との間で、人や米、茶、木材などを運んだ。右岸の八尾側の方を「八尾浜」、左岸の久宝寺側を「久宝寺船着場」と呼び、大いに賑わった。

## 17. 八尾御坊大信寺



浄土真宗本願寺派の本山である本願寺は11世蓮如上人の死後、その後継者をめぐって長男教如と三男准如との間で対立が生じ、結果的に、豊臣政権の支持を得た准如が継承した。一方の教如は、関ヶ原戦後、慶長7年(1602)に徳川家康から寺地を賜り、新たに東本願寺を興した。この本願寺の東西分裂に際して、久宝寺御坊顕証寺が西本願寺に与したため、慶長12年(1607)、教如は長瀬川をはさんで対岸の八尾に八尾御坊大信寺を創建し、同寺を核として八尾寺内町が形成された。現在の本堂は昭和41年(1966)に完成した。

浄土真宗本願寺派の本山である本願寺は11世蓮如上人の死後、その後継者をめぐって長男教如と三男准如との間で対立が生じ、結果的に、豊臣政権の支持を得た准如が継承した。一方の教如は、関ヶ原戦後、慶長7年(1602)に徳川家康から寺地を賜り、新たに東本願寺を興した。この本願寺の東西分裂に際して、久宝寺御坊顕証寺が西本願寺に与したため、慶長12年(1607)、教如は長瀬川をはさんで対岸の八尾に八尾御坊大信寺を創建し、同寺を核として八尾寺内町が形成された。現在の本堂は昭和41年(1966)に完成した。

## 18. 八尾天満宮



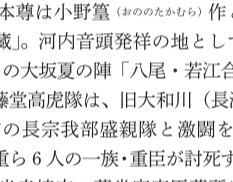
八尾寺内町の鎮守で、「八尾の天神さん」と呼ばれる。祭神は天徳日命(あめのほひのみこと)と菅原道真で、慶長年間(1596～1615)に豊臣家の家老であった片桐且元が創建したと伝えられる。中門は寺内町の木戸門を移建したものといわれ、境内には八尾寺内町を開発した森本行誓の六代の子孫房吉寄進の灯籠がある。

## 19. 常光寺・大坂夏の陣藤堂家家臣墓所



臨済宗南禅寺派の寺院で、本尊は小野篁(おののたかむら)作と伝えられる地藏尊。通称「八尾地藏」。河内首領発祥の地としても著名である。慶長20年(1615)の大坂夏の陣「八尾・若江合戦」で、八尾に陣を布いた徳川方の藤堂高虎隊は、旧大和川(長瀬川)の対岸久宝寺に陣取る豊臣方の長宗我部盛親隊と激戦を展開し、藤堂高虎・藤堂良勝・藤堂良重ら6人の一族・重臣が討死するなど、壊滅的な大打撃を受けた。当寺境内の藤堂家家臣墓所は、彼ら6人をはじめ、討死した藤堂家家臣の遺骸を葬ったもの。また藤堂高虎は、討ち取った長宗我部家臣の首を当寺の廊下に並べて首実検を行なったといわれ、その時の廊下の板が天井板に使われて今も残り、血の跡がしみついた「常光寺血天井」として有名である。

## 20. 慈願寺



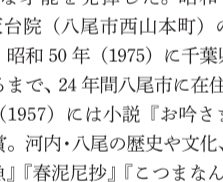
慈願寺は、浄土真宗の宗祖親鸞聖人が関東地方で布教した際に帰依した高弟「二十四輩」の一人で、第十三番に数えられる信願房法心を開基とする。慈願寺は当初、下野国(現在の栃木県)に創建されたが、弘安3年(1280)、親鸞聖人の遺命により久宝寺村を訪れた法心は、ここにも慈願寺を建てた。文明2年(1470)、本願寺8世蓮如上人が河内国で布教を行なった際にはその活動の拠点となり、本願寺の東西分裂後は東本願寺(大谷派)に属し、森本行誓ら17人衆とともに久宝寺から八尾に移り、八尾御坊大信寺の役寺となった。

## 21. 今東光 (こんとうこう) 資料館



今東光は横浜生まれ、作家・宗教学家・政治家など多彩な才能を発揮した。昭和26年(1951)に天台院(八尾市西山本町)の特命住職となり、昭和50年(1975)に千葉県佐倉市に転居するまで、24年間八尾市に在住した。昭和32年(1957)には小説『お吟さま』で直木賞を受賞。河内・八尾の歴史や文化、人々の生活習慣などを題材として、『開闢』『山椒魚』『春泥尼抄』『こつまなんさん』『河内風土記』など、数々の作品を発表した。中でも『悪名』は、勝新太郎の主演で映画化され、シリーズ16作が製作されるなど、一大ブームを巻き起こした。初代文化庁長官を務めた作家・評論家の今日出海(こんひでみ)は実弟。作家瀬戸内寂聴の法名「寂聴」の名づけ親としても知られる。今東光の生涯や作品世界を紹介する今東光資料館は八尾図書館3階に設置されている。観覧:無料。

## 22. 環山楼 (かんざんろう)



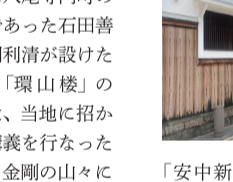
環山楼は、江戸時代中期に八尾寺内町の豪商であった石田善右衛門利清が設けた私塾。「環山楼」の名称は、当地に招かれて講義を行なった京都の儒学者伊藤東涯が、高安・二上・金剛の山々に取り囲まれた景観から名付けたもの。現在の八尾市内には、他に鱗角堂(りんかくどう)や警備舎(えんべいしゃ)といった学塾が存在したが、現存するのは環山楼だけで、現在の場所に移築保存して公開されている。観覧:無料

## 23. 安中新田会所跡旧植田家住宅



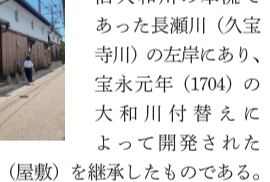
旧植田家住宅は、旧大和川の本流であった長瀬川(久宝寺川)の左岸にあり、宝永元年(1704)の大和川付替えによって開発された「安中新田」の会所(屋敷)を継承したものである。大阪府域にあった新田会所の多くは失われており、会所の土地と建物を継承した旧植田家住宅は、とても貴重な存在となっている。主屋・表門・土蔵1・土蔵2・控舎(番部屋)などの建造物が残り、主屋と土蔵1は江戸時代後期の建築。観覧:有料

## 24. 渋川神社



平安時代の『延喜式』神名帳に載る式内社で、天忍穂耳命(あめのおしほみみのみこと)・饒速日命(にぎはひのみこと)を祀る。もとは長瀬川(久宝寺川)の東岸にあったが、天文2年(1533)の大洪水で流失し、元龜3年(1572)に現社地へ遷されたという。古くは龍華寺の鎮守であったと伝えられ、鳥居前の観音堂はかつての寺の一部。境内にある樹齢一千年という大樟樹は、大阪府の天然記念物に指定されている。

## 25. 楠本神社 (北木の本)・守屋首洗池



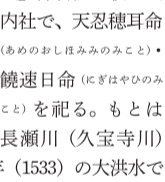
木の本は、木の本・北木の本・南木の本の三つの集落で構成され、それぞれに樟本神社が鎮座する。『延喜式』神名帳にも「樟本神社 三座」と記される。祭神はいずれも古代豪族物部(ものべ)氏ゆかりの「布都(ふつ)大神」。木の本地域一帯は物部氏の本拠地で、仏教の受容をめぐる意見対立に端を発した蘇我馬子(そがのうまこ)と物部守屋(ものべのもりや)とのいわゆる「崇仏戦争」の戦場となった。境内には、この戦いに敗れた物部守屋の首を洗ったと伝えられる直径約3mの「守屋首洗池」が残る。

## 26. 楠本神社 (南木の本)・日羅寺



南木の本の樟本神社で、境内には黄檗宗(おうはくしゅう)寺院の日羅寺がある。日羅は、火(肥後国)葦北国造の刑部卿阿利斯登(あしかべのあけいありしと)の子で、朝鮮半島に渡って百済王に仕えた。敏達天皇の要請で帰国し、聖徳太子の学問の師になったと伝えられる。本尊は薬師如来。

## 27. 光蓮寺・稲城址



浄土真宗本願寺派の寺院。もとは天台宗であったが、8世本願寺8世蓮如上人に帰依して浄土真宗に転じたことと伝えられる。中世には河内国若江郡の稲葉(現、東大阪市)にあったが、慶長年間(1596～1615)に現社地に移ったという。光蓮寺の地は「崇仏戦争」の際、物部守屋が立て籠もって抗戦した「稲城」の跡と伝えられる。

## 28. 楠本神社 (木の本)



木の本の樟本神社。樟本神社三社の祭神はいずれも「布都(ふつ)大神」。これは国土平定に功があった神剣に宿る霊を祀ったもので、物部氏の氏神である奈良県天理市布留(ふる)町の石上(いそのかみ)神宮の祭神である。三つの樟本神社もまた、古代大和朝廷の軍事を掌った物部氏ゆかりの神社である。

## 29. 鎬矢塚 (かぶらやづか)



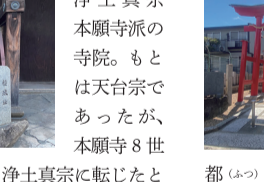
欽明天皇の時代に百濟から伝えられた仏教の受容をめぐる崇仏派の大臣(おほのみ)蘇我稲目(そがのいなめ)と排仏の大連(おほむらじ)物部尾輿(ものべのおこし)は激しく対立し、それぞれの子である蘇我馬子と物部守屋の代になって両者の対立はついに武力衝突へと発展した。用明天皇2年(587)に行なわれた戦いは、俗に「崇仏戦争」と呼ばれ、物部氏の本拠地である河内国淡川郡(現在の八尾市周辺)が戦場となった。用明天皇の皇子であった聖徳太子(厩戸皇子)も蘇我氏方としてこの戦いに参戦したが、軍事を専門とする物部氏相手に苦戦を強いられた。聖徳太子が自ら四天王像を刻んで戦勝を祈願したところ、速見赤檮(すみのかい)の放った矢が物部守屋に命中し、蘇我氏方が勝利を得たと伝えられる。鎬矢塚は、物部守屋を射た矢を埋めたところと伝えられる。

## 30. 物部守屋墓



物部守屋は、欽明天皇の時代に大和朝廷の大連(おほむらじ)の地位にあった物部尾輿の子で、母は弓削倭古(ゆげのやまこ)の娘阿佐姫と伝えられ、『日本書紀』には「物部弓削守屋大連」と記される。用明天皇2年(587)の「崇仏戦争」で、守屋は速見赤檮(すみのかい)が放った矢によって討ち取られたと伝えられる。仏教導入に反対した守屋は長く逆賊とされたため、その墓は荒れ果てていたが、明治2年(1869)から墓の整備が始まり、昭和42年(1967)に大阪府神社庁中河内分会によって「物部守屋公顕彰碑」が建てられ、昭和62年には全国の有名神社によって墓地を囲む玉垣が作られた。

## 31. 大聖勝軍寺 (だいしょうじょうぐんじ)



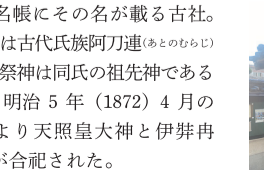
蘇我馬子と物部守屋が戦った「崇仏戦争」の古戦場に建てられた寺で、聖徳太子の開基と伝えられる。高野山真言宗。太子町の観福寺を「上の太子」、羽曳野市の野中寺を「中の太子」と呼ぶのに対して「下の太子」と称され、河内三太子の一つに数えられる。聖徳太子御遺跡霊場第二番札所、河内飛鳥古寺霊場第三番札所。「崇仏戦争」で聖徳太子が絶体絶命の窮地に陥ったとき、棕(しん)の大樹が二つに割れ、幹の間に生じた空洞に身を隠して太子は難を逃れたと伝えられる。境内にその「神妙棕樹(しんみょうしょうじゅ)」があり、当寺山号の「神妙棕樹山」はこれに由来する。

## 32. 跡部神社



『延喜式』神名帳にその名が載る古社。当地「跡部郷」は古代氏族阿刀連(あとのむらじ)の本貫地で、祭神は同氏の祖先神である阿刀連大神。明治5年(1872)4月の太政官符により天照皇大神と伊弉冉(いざなみ)大神が合祀された。

## 33. 真観寺・三好長慶墓



臨済宗南禅寺派の寺院で、「八尾地藏」常光寺とは兄弟寺である。織田信長上洛以前の「天下人」として近年脚光を浴びる三好長慶の葬儀はこの寺で行なわれ、境内に墓所があり、並んで、長慶の後継者となった三好義興の墓も建つ。大坂夏の陣で伽藍が焼失したが、徳川家康の普請として知られる金地院崇伝(こんちんすうでん)が再興。しかし、江戸時代に再び焼失した。戦国時代の古文書、徳川歴代将軍の朱印状などが多数伝来する。



臨済宗南禅寺派の寺院で、「八尾地藏」常光寺とは兄弟寺である。織田信長上洛以前の「天下人」として近年脚光を浴びる三好長慶の葬儀はこの寺で行なわれ、境内に墓所があり、並んで、長慶の後継者となった三好義興の墓も建つ。大坂夏の陣で伽藍が焼失したが、徳川家康の普請として知られる金地院崇伝(こんちんすうでん)が再興。しかし、江戸時代に再び焼失した。戦国時代の古文書、徳川歴代将軍の朱印状などが多数伝来する。

**KANSAI ウォーク 2023**

八尾市久宝寺緑地 (修景広場) から 聖徳太子ゆかりの地、寺内町を歩くコース  
【解説面監修】北川 央 (九度山・真田ミュージアム名誉館長)

大会途中で棄権したり、救護を要する時は…  
大会本部 (Central Site) 救護 (First Aid)  
TEL 080-8506-5200 この電話は大会当日のみ有効です